

川西町新庁舎整備実施設計概要

新庁舎は、災害に強く、町民の利便性を第一に考え、親しまれる庁舎を目指します。



設計コンセプト

町民の暮らしを守り、町民に親しまれる新しい「まちの庁舎」

① 町民の暮らしを守る庁舎

庁舎は耐震型鉄筋コンクリート造とし、庁舎に求められる最も高い耐震性能を確保するために「連層壁柱付ラーメン構造」を採用します。
 災害発生に迅速に対応できる災害対策機能を整えるとともに、庁舎ライフラインの確保と業務継続計画(BCP)を確実に実行できる庁舎とします。

② 町民にひらかれた利用しやすい庁舎

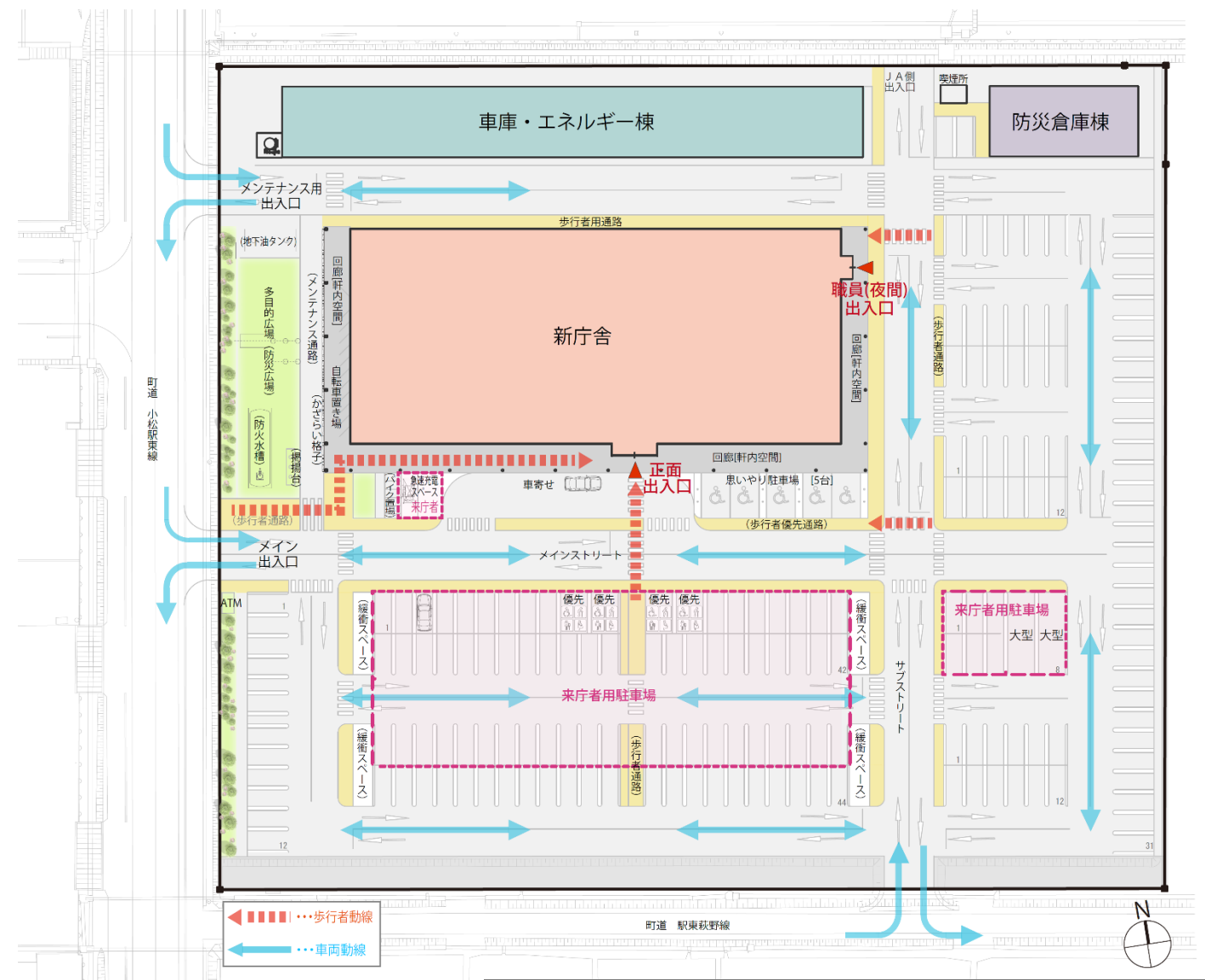
町民利用の多い業務は1階に集約するとともに、総合案内の設置、分かりやすい案内表示などにより迷わずスムーズな手続きが行える庁舎とします。
 ロビー(待合、交流スペース、情報発信コーナー)、交流室を配置するとともに、公衆Wi-Fiを設置し町民が気軽に交流でき、情報を発信できる庁舎とします。
 3階には議会機能を集約するとともに、ユニバーサルデザインに配慮した傍聴席を設置し、町民が気軽に傍聴できる庁舎とします。

③ ひとと環境にやさしい庁舎

ユニバーサルデザインを導入した庁舎とし、エレベーター、多機能トイレ(各階)や思いやり駐車場(屋根付)、ユニバーサル駐車スペースを設置するとともに、授乳室、キッズスペースを設置し、子育て世代を含め誰もが安心して利用できる庁舎とします。
 雪による事故、建物損壊を防ぐため、雪対策を万全にした庁舎とします。
 建物の高気密高断熱などによる省エネルギー化と、再生可能エネルギー(太陽光発電、地下水熱)を活用した設備導入により、CO2排出削減に努めます。

④ 効率的で機能性・経済性の高い庁舎

町民と職員の動線を区分し、町民の利便性、効率的な行政サービスとセキュリティを高めた庁舎とします。
 執務室はワンルーム型のユニバーサルレイアウトにより変性を確保し、将来の行政需要の変化に柔軟に対応できる配置とします。
 建設コストを抑制し、維持管理、修繕などのメンテナンスコストの縮減に努め、ライフサイクルコストの低減を図る庁舎とします。



設計概要

A. 敷地概要

地名地番：山形県東置賜郡川西町大字上小松 977 番地 1
 敷地面積：11,453.89㎡
 前面道路：西側町道 小松駅東線[幅 11.7m (歩道含)]
 南側町道 駅東萩野線[幅 4.0m]
 地域地区：都市計画区域：用途指定なし 建築基準法第 22 条地域

B. 計画建物概要

新庁舎

施設用途：町役場庁舎
 構造階数：鉄筋コンクリート造地上 3 階建
 建築面積：2,035.13 ㎡/延床面積：4,434.36 ㎡

車庫・エネルギー棟

主要用途：車庫、書庫、機械・電気設備室
 構造階数：鉄骨造平屋建
 建築面積：588.75 ㎡/延床面積：588.75 ㎡

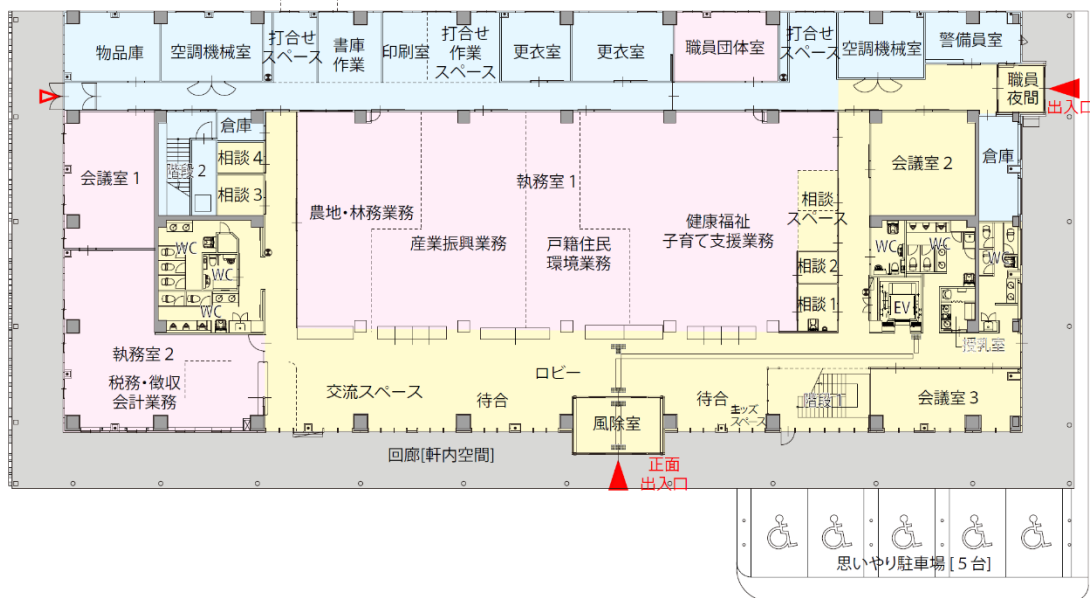
防災倉庫棟

主要用途：倉庫(資機材) 構造階数：鉄骨造平屋建
 建築面積：153.00 ㎡/延床面積：153.00 ㎡

新庁舎フロアレイアウト

- 凡例
- 執務エリア
 - バックヤードエリア
 - 町民利用エリア
 - 議会エリア

1階平面計画図



■建物概要

・執務、議会、発災時の災害対策本部機能をもつ

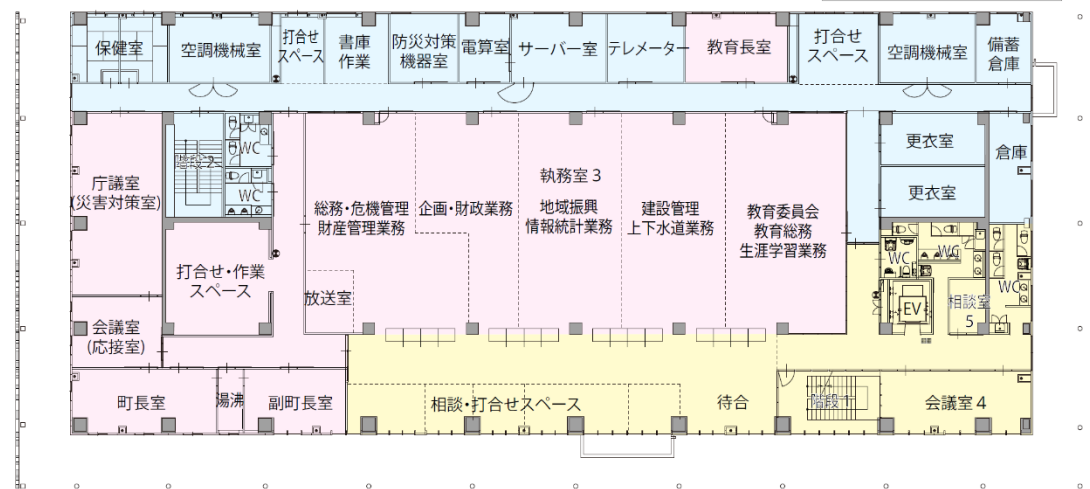
- ・1、2階に執務室、3階に議会、大会議室を配置し利用しやすい構成

■各階ゾーニング

1階

- ・町民利用の多い業務を集約
- ・南側ロビーに待合、交流スペース（情報発信コーナー、販売コーナー）、キッズスペースを設置

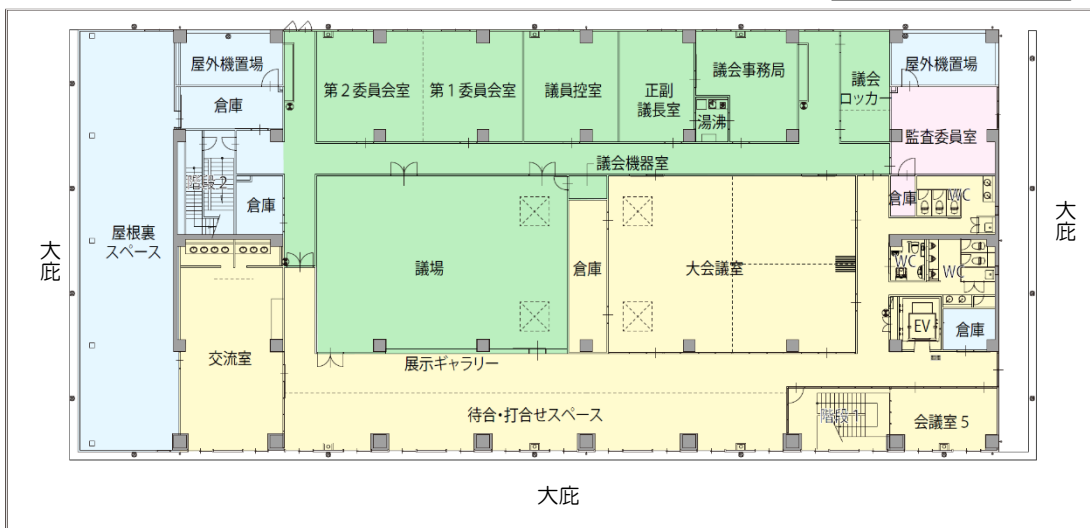
2階平面計画図



2階

- ・町長室、庁議室を西側に配置し発災時の災害対策本部機能を集約
- ・北側に電算室・サーバー室・防災対策機器室・テレメーター室を集約して円滑な災害対応に配慮

3階平面計画図



3階

- ・議会部門と監査委員部門を北側にまとめて独立した動線を確保
- ・大会議室は分割して利用でき、発災時の災害対策にも利用
- ・交流室を西側に配置し職員の休憩や町民の交流に利用

主な取り組み

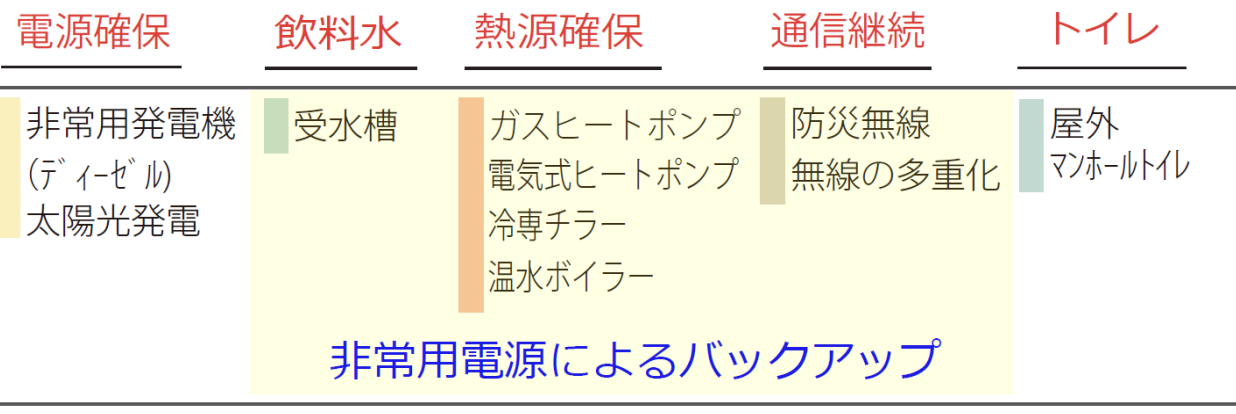
1. 構造計画

- ・庁舎は、最も高い耐震性能（一般の建物の1.5倍）を確保するため、東西に設けたコアを利用して連層壁柱（コア壁）を設置し、地震時に揺れを効率的に抑制する「連層壁柱付ラーメン構造」とします。
- ・車庫・エネルギー棟は鉄骨造とし、庁舎と同じ耐震性能を確保します。

2. 防災対策

- ・車庫・エネルギー棟には、非常用発電機と受水槽を設置します。
- ・非常用発電機は、72時間の電力供給が行える容量とし、発災時の電源として活用します。また、受水槽の貯留水は、発災時の飲料水等として活用します。
- ・発災時も業務が継続可能とするため、庁舎内のサーバー室は機器免震を採用してサーバーの安全性を確保します。

《発災時のバックアップ対策》



3. 雪対策

- ・3階屋根からの落雪を防ぎ、建物周囲の安全を確保するために「大庇」と軒内空間である「回廊」を設けます。
- ・大庇は空調による温水ボイラーを利用した無散水融雪を行い、過度の堆雪や氷柱の発生を抑えます。
- ・3階東側の笠木部分に雪庇防止ヒーターを設置します。
- ・思いやり駐車場、回廊は地下水熱を利用した還元式の無散水融雪により、安全性を確保します。

